

町史だより



「西原町史」発刊に向けて①

西原町立図書館町史編集係では、現在「資料にみる西原 ビジュアル版」を編集すると同時に、町内の歴史資料（古写真・地図・文書など）の収集も行っています。そこで今回は、西原町の産業の中心であった製糖、特に戦前の製糖工場や試験場地に関することを時代ごとに紹介したいと思います。

明治時代の糖業改良事務局

一九〇六（明治三十九）年、農商務省は沖繩県の糖業振興のため、県庁内に「糖業改良事務局」を設置しました。その翌年、十一月一日に局舎を西原の我謝に移転し、さらに翌年には同局の附属工場が完成しました。その敷地は約一五五〇〇坪の広大なものであり、そのうちサトウキビの試験地や栽培地が約一二〇〇〇坪、残りの三五〇〇坪に官舎一〇棟と製糖工場、事務所や道路がありました。当時の製糖工場の煙突は九〇尺（二十七メートル）だったといえます。一九〇九（明治四十

二年には沖縄県で初めて分蜜糖の製造が行われました。一九二二（明治四十五年）、政府は「目的を達した」という理由から糖業改良事務局を廃止し、工場は「沖繩製糖株式会社」に払い下げられ、工場以外は沖繩県が譲り受け、「県立糖業試験場」を設立しました。

大正時代の製糖工場

糖業改良事務局の廃止にともない、沖繩製糖株式会社が操業を始めましたが、一九二二（大正元）年の台湾進出で社名を「沖台拓殖製糖株式会社」へと改称し、それまで一〇〇坪だった西原工場に加え、一九一七（大正六）年に新たに二五〇坪の工場を同敷地内に建設しました。しかし、同年、台湾から進出してきた「台南製糖株式会社」に吸収合併されました。

昭和時代の製糖工場

一九三二（昭和六）年六月、西原村字我謝にあつた沖繩県立糖業試験場は、農業生産の多様化への対応のために県立農事試験場と合併し、「沖繩県立農事試験場 西原試験地」となりました。その名残で現在も我謝にあるバス停の名は「試験場跡地」となっています。

一方、台南製糖株式会社は経営難が続いたため台湾から撤退し、一九三二（昭和七）年二月に社名を「沖繩製糖株式会社」（前記の会社名と同名だが別会社）に改称しました。その後、沖繩戦で工場や試験場は破壊されました。戦後、そこには小那覇飛行場建設で土地接收された人々（崎原・仲伊保・伊保之浜）などが移り住みました。



1930(昭和5)年頃の台南製糖(株)西原工場全景
『日本糖業発達史(生産編)』より転載



1930(昭和5)年頃の沖縄製糖(株)西原工場
『沖縄県人物風景写真大観』より転載



1944(昭和19)年10月10日 米軍が撮影した沖縄製糖(株)と沖縄県立農事試験場
中央下側の道は我謝馬場、現在の国道329号線にあたり、左側は与那原・右側は中城方面

【参考文献】『沖縄県農業試験場百年史』／『糖業改良事務局報告』第一号／『糖業事典』／『西原町史』第七巻
【協力】株式会社 Nansai / 琉球大学 附属図書館

お知らせ
今月、『西原町史』付随刊行物「資料にみる西原 ビジュアル版」が発刊されます。写真や資料を使い西原の歴史を紹介しています。是非、一度ご覧ください。（詳細は次号で）